



たけひこ 谷口 議員

寒くなってきましたね
そろそろ冬支度

問 安心して暮らせる防災対策の取り組みは

町長 自主防災組織を全町的に広めたい

災害後の住宅支援

問 今回の災害による河川などの氾濫で、市街地にも大きな被害が見られたが、床下・床上浸水などの被害が起った場合、復旧の支援策の考えは。

町長 自然災害の被害については、被災者が被害回復を行うケースがほとんどであり、火災保険の対象となるため、町では申請に必要な罹災証明を発行している。また、高齢者などの被災住宅で、後片付けなどが困難である場合に職員による復旧作業などの支援を行うなどの対応もしていく。

ハザードマップ

問 常呂川・訓子府川が氾濫した場合の洪水ハザードマップはあるが、その他の河川を対象にしたものの検討は。

町長 必要性は感じているが、作成については、非常に専門的な調査が必要となり、国や道で作成した浸水想定区域図を活用しなければならぬため協力依頼をしているが、現状は検討段階にない。

リアルタイムな情報

問 町の災害情報は「サポートメール@防災くんねっぷ」があるが、リアルタイムで非難が必要、冠水で車が通れないなどを、SNSなどで発信はできないか。

町長 必要性は感じており、どこまでできるのか検討中であるが、何かしらの情報発信などをしていきたい。



新しく発行した洪水ハザードマップ

問 災害時はいつも家にいるとは限らない。防災ガイドマップなどを、町の施設やコンビニ、お店などの店先に置いていただき、自由に持ち帰れるようにできないか。

町長 現状は、役場に窓口には置いていないが、事業者の方が置いてもらえば、進めていきたい。

自主防災組織

問 今後の防災対策は。

町長 各実践会、町内会の自主防災組織を全町的なものにしていきながら、啓蒙活動を広めたい。

問 物価高騰対策 今後の取り組みは

町長 年末に向けて対応していく

物価高騰支援策

問 コロナ禍での物価高騰、原油高だが新たな支援の考えは。

町長 特に影響が大きい住民税非課税世帯に、冬季生活支援も含めた中で、一世帯3万円を支給する。

問 電気代、最低賃金、農業資材、飼料、肥料が上がる。さまざまな要因で生活が苦しくなるのは非課税世帯だけではない。

町長 水道料金や給食費の減免、燃料や飲食店・商店使えるようなクーポン、ゴミ袋の配布や割引券など新たな支援を検討してほしいが。

町長 全町民対象に1万円の商品券を配るなど、今までもきめ細やかな支援は行っている。

国からの地方創生臨時交付金を活用し、商工会の出方も待ちながら、国の動向などを見極めて年末に向けて対応していく。



谷口議員の一般質問を視聴できます